

## 令和2年度千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム

### 「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」

#### (応用コース)第1期生 募集要項

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」は、現在オールジャパンで展開されている農業と福祉双方の課題解決を図る取組みとしての農福連携に、当センターがこれまで取り組んできた「環境・健康・食」に関する教育研究活動の成果を加えた“多様な”農福連携活動を企画・運営できる人材を持続的に育成するシステムを構築することを目的としたプログラムです。

令和2年度は応用コースのプログラム受講生（第1期生）を下記の要領で募集します。

#### 1. 概要

本プログラムは、多様な農福連携プログラムを企画・運営するための実践的な知識・能力の獲得を目指す実習・演習・現場体験を組み合わせたカリキュラムになっており、当センターの強みである「植物とヒトとの関わり」についてより深く学び、特に栽培の現場実習を充実させるとともに、福祉事業場をはじめとする農福連携の現場を体験することで、農業と福祉の連携に関する課題を現場レベルで理解し、解決のための提案ができる人材の育成を目指します。さらに、受講生自らが農福連携に関する活動成果を発信することで、地域連携を推進し、以てSDGsの実現に寄与できる企画の立案・運営を行っていただく、合計60時間のプログラムになります。（対面とオンラインの併用を予定しています。）

プログラム修了後は、栽培に関する一連の知識・技術を習得（農業検定3級又は2級相当）し、併せて農福連携の現場に自らコミットし、活動を展開できる能力を身に付けることを想定しています。また、各実習等を通じて、より高度な分析評価能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、パートナーシップ構築能力を身に付けることを期待しています。

#### 2. 応募資格

原則として、「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（入門コース）」を修了した方。ただし、実際に農福連携活動に従事したことがある方については要相談とします。

#### 3. 募集定員

10名程度（応募書類を選考の上、令和3年2月24日（水）以降速やかに選考結果を連絡します。）

#### 4. 応募方法

##### (1) 応募書類

「令和2年度多様な農福連携プログラムに貢献できる人材育成プログラム（応用コース）」応募用紙

※応募書類は、千葉大学環境健康フィールド科学センターウェブサイトよりダウンロードすることができます。

URL : <http://www.fc.chiba-u.jp/rishuushoumei/2020boshu.pdf>

##### (2) 応募期間

令和3年2月8日（月）～令和3年2月19日（金）（必着）

### (3) 書類提出先

応募書類を同封の上、下記宛先に「千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム（応用コース）応募書類在中」と朱書きし、簡易書留にて郵送願います。

〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

千葉大学環境健康フィールド科学センター（柏の葉地区事務課）総務係 宛

※応募にあたってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、本学において、履修生の管理業務、本プログラムに関する情報提供等、これらに付随する業務を行うためのみに使用します。また、取得した個人情報には適切に管理し、使用目的以外には使用しません。

## 5. 修了の要件

履修証明プログラムとして設定された実習・演習・現場体験計 60 時間すべてにおいて、それぞれの修了要件を満たすこと。本プログラムを修了した場合、履修証明書を授与します。なお、単位の授与はありません。

※修了された方は、「ノウク千葉大モデル」の構築を目指す上位コース（来年度開講予定）の履修を推奨いたします。

## 6. 受講料及びその他費用について

### (1) 受講料 60,000 円

※受講決定通知後、令和 3 年 3 月 31 日（水）までに振り込み願います。なお支払われた受講料は、原則返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

※本学職員が受講する際には、受講料を免除します。

### (2) その他

本プログラムで実施する対面授業・施設見学等に参加する交通費・施設見学科・宿泊費等は自己負担となります。対面授業は、原則千葉大学柏の葉キャンパスで実施することを予定しています。

## 7. 今後の日程について

(1) 応募書類締切	令和 3 年 2 月 19 日（金）必着
(2) 選考結果通知（振込み案内の送付を含む）	令和 3 年 2 月 24 日（水）以降
(3) 受講料の支払い（60,000 円）	令和 3 年 3 月 31 日（水）まで
(4) 対面／オンライン授業期間 ※初日に開講式、最終日に修了式を行います。	令和 3 年 3 月 13 日（土）～令和 3 年 7 月 10 日（土）
(5) 現場実習・福祉事業所見学	上記期間で実施します。
(6) 履修証明書授与	所定の手続きを経た後、郵送します。

## 8. 問い合わせ先

千葉大学環境健康フィールド科学センター（柏の葉地区事務課）総務係

〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

Tel : 04-7137-8006 Mail : zao8006@office.chiba-u.jp

## 履修証明プログラムの構成・シラバス・日程表

### ●多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（応用コース）

#### （１）構成

		講座名等（案）			
応用 コース	コース名	分類	講義形態	時間	講義担当（ ）内は所属 学外講師の演習にはセンター教員がコーディネーターとして参加
	○農福連携の事例紹介と個別の課題	福祉	講義・演習	3	吉田行郷（農水省・農林政策研究所次長） 社会福祉法人ピア宮敷（千葉県いすみ市） 農業法人笠間農園（石川県河北郡）
	○自然栽培基礎	植物	講義・ 現場実習	3	小林寛利（VEGIMO GROUP）
	○農作業分析と障害への支援	人間 工学	講義・演習	3	豊田正博（兵庫県立大学）
	○ブランディングデザイン論	経営	講義・演習	3	渡邊慎二（千葉大学工学研究院）
	○ベンチャーアグリビジネス論	経営	講義・演習	3	大林修一（プラネット）
	○農業者、農業法人、福祉事業場等の農福連携現場見学	見学 演習	現場見学 演習	3	※柏市立青和園（就労継続支援 B 型）等 オンラインでの見学を計画
	○栽培実習 ・野菜の露地／施設栽培 ・果菜類の栽培管理 ・農業機械の取扱い ・ジャム加工	実習	現場実習	30	高垣美智子・小原均・渡辺均・塚越覚・野田勝二 他（千葉大学環境健康 FSC）
	○販売実習／SNS 活用実習 ・ノフクマルシェ等の企画・実施 ・Twitter、Facebook、Youtube 等の活用による広報 ・オンラインサロンの開設・活用等 ・アプリの開発	演習 実習	演習 現場実習	6	オンライン、オンデマンドで講義時間外にも実施予定 高垣美智子・小原均・渡辺均・塚越覚・野田勝二 他（千葉大学環境健康 FSC）
	○園芸福祉学実習 ・園芸作業における疲労と気分の測定実験 ・OWAS 法を用いた作業姿勢の改善実験 ・エビデンスを収集し、優良モデルの開発・一般化	演習 実習	演習 現場実習	6	高垣美智子・小原均・渡辺均・塚越覚・野田勝二 他（千葉大学環境健康 FSC）

※講義や見学は実施時の状況や受講生の希望を考慮したうえで「対面双方向」・「オンライン双方向」・「オンデマンド」のいずれか又は併用で行う。なお、予定は変更される場合がある。

開講初日に開講式、最終日に受講生によるプレゼンテーション、修了式を実施する。

(2) コースの概要 (各3時間)

1) 応用コース

農福連携の事例紹介と個別の課題	
キーワード	農業と福祉の連携、経済性、GP
概要	現状の農福連携の仕組みと優良事例を解説する。 課題を学び、解決策の検討を行う。
開講日	令和3年4月10日 13時～16時
担当	吉田行郷（農水省・農林政策研究所次長）、社会福祉法人ピア宮敷、農業法人笠間農園
分類	福祉
到達目標	農福連携事業での現状と課題を理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

ベンチャーアグリビジネス論	
キーワード	六次化、付加価値化、産直
概要	農業に関わる新しいビジネスモデルの事例を学ぶ
開講日	令和3年5月22日 13時～16時
担当	大林修一（プラネット）
分類	経営
到達目標	農福連携に関わるビジネスモデルが企画できる。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

自然栽培基礎	
キーワード	有機農業、代替農業、有機物循環
概要	自然栽培の土壌管理、栽培管理の基礎を理解する。
開講日	令和3年6月5日 13時～16時
担当	小林寛利（VEGIMO GROUP）
分類	植物
到達目標	自然栽培における栽培管理方法を理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

農作業分析と障害への支援	
キーワード	栽培管理、作業難易度
概要	農業の栽培管理について作業別に、難易度が見える化し、農福連携の取組に活用する方法を紹介する。
開講日	令和3年6月19日 13時～16時
担当	豊田正博（兵庫県立大学）
分類	人間工学
到達目標	様々な栽培管理における作業の組み立てと、それぞれの作業特性を理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

ブランディングデザイン論	
キーワード	ブランドデザイン、ノウク JAS、
概要	製品の付加価値化のためのデザインの役割と意義、実例を挙げて解説する。
開講日	令和3年5月8日 13時～16時
担当	渡邊慎二（千葉大学工学研究院）
分類	経営
到達目標	生産品の価値を高める方法を提案できる。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

現場見学	
キーワード	福祉施設、農場
概要	農福連携の現場を見学し、取り組みの工夫、課題、将来展望などを理解する。優良事例との比較を行う。
開講日	令和3年4月24日 13時～16時
担当	高垣美智子・小原均・渡辺均・塚越覚 他（千葉大学環境健康 FSC）
分類	見学・演習
到達目標	農福連携事業の現状と課題を理解することができる。事業の改善を提案できる。
構成	オンライン見学3時間
修了要件	見学、演習に参加すること
特記事項	今回のプログラムはコロナウイルス感染拡大の状況を考慮して、オンラインで実施します。

栽培実習	
キーワード	農場、施設園芸、ジャム加工
概要	農福連携の取組で作物栽培、加工などについての基礎知識を学び実践を通じて理解を深める。作付計画立案から収穫まで取り組む。 葉菜類の露地／施設栽培 播種、育苗、定植、収穫、調整、出荷 果菜類の栽培管理、農業機械の取扱い、ジャム加工
開講日	令和3年3月13日、27日、4月10日、24日、5月8日、22日、6月5日、19日、7月3日、10日 9時～12時
担当	小原均・渡辺均・塚越覚・高垣美智子他（千葉大学環境健康 FSC）
分類	実習
到達目標	作物栽培、加工の基礎や課題を理解することができる。 事業の改善を提案できる。
構成	実習 30 時間
修了要件	実習に参加すること
特記事項	

販売実習／SNS 活用実習	
キーワード	マルシェ、オンライン、情報発信
概要	・販売実習や SNS の活用を通じてより実践的な知識・技術を身に付ける。
開講日	令和3年3月13日、7月3日 13時～16時
担当	高垣美智子・小原均・渡辺均・塚越覚・野田勝二他（千葉大学環境健康 FSC）
分類	演習・実習
到達目標	SNS での発信ができる、アプリの提案ができる
構成	演習・実習 6 時間
修了要件	演習・実習に参加すること
特記事項	

園芸福祉学実習	
キーワード	作業姿勢、評価法、
概要	・園芸作業における疲労と気分の測定実験 ・OWAS 法を用いた作業姿勢の改善実験 ・エビデンスを収集し、優良モデルの開発・一般化
開講日	令和3年3月27日、7月10日 13時～16時
担当	野田勝二・小原均・高垣美智子他（千葉大学環境健康 FSC）
分類	演習・実習
到達目標	園芸作業の福祉的効果を理解する。
構成	演習・実習 6 時間
修了要件	演習・実習に参加すること
特記事項	

(3) 開講日程表

原則隔週土曜日開講 1日6時間 (9:00~12:00、13:00~16:00)

月日	午前 (9:00-12:00)	午後 (13:00-16:00)	備考
3月13日	開講式、栽培実習 (作付計画を立てる) 小原均他 (千葉大学)	販売実習/SNS活用実習 高垣美智子他 (千葉大学)	
3月27日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	園芸福祉学実習 野田勝二他 (千葉大学)	
4月10日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	農福連携の事例紹介と個別の課題 吉田行郷 (農林水産省) 他	笠間農園、ピア宮敷の事例紹介
4月24日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	オンライン見学 (予定)	
5月8日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	ブランディングデザイン論 渡邊慎二 (千葉大学)	
5月22日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	ベンチャーアグリビジネス論 大林修一 (プラネット)	
6月5日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	自然栽培基礎 小林寛利(VEGIMO GROUP)	
6月19日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	農作業分析と障害への支援 豊田正博 (兵庫県立大学)	
7月3日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	販売実習/SNS活用実習 高垣美智子他 (千葉大学)	
7月10日	栽培実習 小原均他 (千葉大学)	園芸福祉学実習 野田勝二他 (千葉大学)	
7月17日		発表会・修了式等	